

## 一般社団法人日本災害看護学会 平成 28 年度臨時代議員会 議事録

日時：平成 28 年 12 月 23 日（金・祝）13：30～15：00

場所：兵庫県民会館 9 階 902 会議室

出席者：臼井千津代議員，浦田喜久子代議員，太田晴美代議員，川西千恵美代議員，夏目恵美子代議員，船橋香緒里代議員，三澤寿美代議員，三橋睦子代議員  
山本あい子理事長，南裕子副理事長，大柴福子理事，石井美恵子理事，小原真理子理事，山田覚理事，片田範子推薦理事，森下安子推薦理事，西上あゆみ推薦理事，大野かおり推薦理事，尾山とし子監事

委任状：30 名

(敬称略)

### 1. 開会

司会の南副理事長より，出席代議員 18 名，委任状 30 名であり，定款第 24 条および 24 条の 4 に基づき，代議員会が成立することが報告された。(代議員 51 名中，48 名出席)

### 2. 理事長挨拶

山本理事長より挨拶があった。

### 3. 議長選出

定款 22 条より，理事長が議長となることが確認された。

### 4. 議事録署名人選出

北海道学園大学大学院 太田晴美氏，愛知医科大学病院 夏目恵美子氏が議事録署名人として選出され，承認された。

### 5. 議事

#### 1) 平成 28 年度補正予算案の承認（西上理事）：臨時代議員会資料 p1～3

平成 28 年度定時代議員会，総会で提示した予算案からの補正について，西上理事より以下のとおり説明し，満場一致で承認された。

- (1) 支出：理事会・代議員会予算額を 2,214,000 円より，3,714,000 円に増額（臨時代議員会開催のため）する。
- (2) 支出：所属組織会費等を 822,000 円より，560,000 円に減額（WSDN 参加費等の支出がなかったため）する。
- (3) 支出：費目に『第 19 回年次大会準備金』を増設（法人化に伴い，年次大会収支が特別会計から一般会計に移行したため）する。
- (4) 支出：上記 1) ～3) に伴い予備費を 10,618,635 円より，9,228,635 円に減額する。
- (5) 修正：収入の部「8 特別会計【特別会計】より繰入」421,500 円は，特別会計で計上しており，重複記載となるため削除する。

#### 2) 第 20 回年次大会 大会長の推薦（山本理事長）：臨時代議員会資料 p7

第 20 回年次大会会長として，兵庫県立大学地域ケア開発研究所 増野園恵氏が推薦され，満場の拍手をもって承認された。

## 6. 報告

### 1) 平成 29 年度選挙に関連した代議員・役員の任期：臨時代議員会資料 p8

法人法に従い、任意団体時の任期を法人後に引き継ぐことはできないため、平成 29 年度選挙は代議員・役員の任期満了による被選挙権の制限はない（任意団体時の評議員・役員任期は反映されない）。

また、現在の代議員・役員は設立時社員であり、平成 29 年度選挙により選出された社員が第 1 期社員となることが確認された。

## 7. 学会活動に対する意見交換

本年度の委員会・プロジェクトの活動に関して概略報告を行い、代議員と意見交換を行った。主な内容は以下のとおりであった。

### <概略報告>

#### 1) ネットワーク活動（石井理事）

- ・ ネットワーク活動・調査調整部会は任期満了に伴うメンバー交代の時期である。後進の育成も合わせてどのように対応していくか検討中である。

#### 2) 教育活動（小原理事）

- ・ 12 月 18 日に鳥取看護大学にて、災害看護フォーラム「みんなで語ろう 災害復興への知恵」を開催した。鳥取県中部地震後で看護師以外にも学生・行政・住民約 300 人が参加し、関心が高かった。

#### 3) 国際交流の推進（南副理事長）

- ・ 平成 29 年 1 月 7 日に「日本災害看護学会仙台防災枠組研修会（通称：仙台枠組ワーキング）」を開催する。仙台防災枠組を災害看護から考える会であり、DNGL5 大学のうち高知県立大学、東京医科歯科大学、兵庫県立大学を拠点にしてテレビ会議を行う。代議員の方々には案内を送付予定であり、是非、出席してほしい。大学院生も参加可。会議で提案された内容は理事会や代議員会で検討し、広く発信したい。

#### 4) 熊本地震看護プロジェクト（石井理事）

- ・ 益城町長の依頼で、平成 28 年 9 月より、熊本大学宇佐美先生が中心となって現地保健師の健康相談をサポートしている。平成 29 年 3 月まで活動予定である。仮設住宅住民への健康調査も行った。100 名に聞き取りを行ったが、ひきこもりやうつ等の被災者が見受けられた。今後は調査データの整理とともに自治体職員の健康管理を支援する予定である（活動に対し、益城町長よりお礼状が届き回覧した）。

#### 5) 募金活動委員会（西上理事）

- ・ HP に「平成 28 年熊本地震に対する募金のお礼とご報告」をアップし引き続き募金活動を継続していることが報告され、代議員へ募金協力を依頼した。

<代議員との意見交換>

- ・ 看護学生ボランティアが被災地支援にスムーズに入れない。社協が窓口なので、一般ボランティアと同じ処遇となり、看護活動に結びつかない。
- ・ 西原村では DNGL の学生などさまざまな看護ボランティアが活動しており、連携・協働が重要であった。
- ・ 障がい者施設入所者の看護困難な状況（スペース，人材不足）があった。東日本大震災で活動した看護師から福祉避難所の情報を聞き開設する施設があった。
- ・ 阿蘇ではトイレの問題があった。
- ・ 被災者の自立支援は難しい。住民・地域特性に応じたアプローチが大切である。
- ・ 受援力が必要であるということは自治体もわかっているが、スムーズにいかない。支援を受ける側，ゲートキーパーの力量アップが望まれる。

8. 第 19 回年次大会会長あいさつ

近田敬子氏（鳥取看護大学学長）より挨拶とともに、準備状況の説明があった。また、代議員に対して、査読・座長等協力の依頼があった。

9. 閉会のあいさつ

南副理事長の挨拶により、平成 28 年度臨時代議員会は閉会した。

一般社団法人日本災害看護学会 平成 28 年度臨時代議員会 議事録の承認

平成 29 年 月 日

議 長 印

議事録署名人 印

議事録署名人 印